

体験的な学習から議論による学習へ

〈中学公民「選挙のしくみと課題」〉

「社会にフォーカス」のコーナーで、子どもたちの政治に対する関心を高めるためには、政治参加の体験的な学習を意義あるものにする議論による学習が大切であると述べました。

そこで、今回は、体験的な学習から議論による学習へと展開し、選挙に対する関心を高める実践例を紹介します。



1 選挙の模擬体験をする（選挙シミュレーション）

- (1) 選挙公約を考える。(各自)
- (2) 全員の公約をカードで紹介し、同じ内容の公約の人同士でグループ（政党）をつくる。
- (3) グループで選挙公約を検討し、立候補者を決める。
- (4) 選挙運動を実施する。(立会演説会や政策討論会)
- (5) 投票する。
- (6) 開票し、当選者を決定する。
- (7) 選挙の模擬体験の結果、生まれた問題を出し合う。

〈予想される問題〉

- ・ 実際の選挙はどのように行われているのか。(選挙制度)
- ・ 国民は、必ずどの選挙でも投票しているのだろうか。(投票率の現状)
- ・ 当選者の決定の仕方は適切なのだろうか(社会的決定の在り方と運用)
- ・ 公約はどのようにして実現されるのだろうか。(政策の具現化)等



2 選挙制度や投票率について調べる

1の(7)で出された問題について調べる。

3 よりよい選挙にするための具体的な取組について考え、議論する

- (1) 投票率の低下を防ぐための方法を考えよう。(投票率アップ大作戦)
- (2) (1)で出された考えのよしあしについて議論する。
 〈例〉「投票を棄権したら1万円の罰金を払わせる」というA君の考えについてあなたはどうか。



1で選挙の大まかな流れを具体的、実感的にとらえ、**2**で投票率の低迷等、選挙の現状を把握し、**3**でよりよい選挙の在り方を個々のレベルで考えさせます。そして、各自の考えを互いに吟味・検討する議論の場を設定します。

このような政治参加の模擬体験及び議論を通して、選挙への関心を高めていきます！